

「怖いのは、嘘とわかるまで嘘も真実」 10月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

先日、湯布院を訪れたとき、外国人の観光客の多さに驚かされました。同時に老若男女を問わず、ほとんどの人がスマホで目的地を探していることにも驚かされました。スマホが広がるまでは、地図を片手に目的地を探し歩いていましたが、随分と旅の様子が変わってきました。選挙戦でもSNSが投票行動に強い影響を与えているというニュースも流れています。

私たちは日々、大量の情報に囲まれ、誰もがいつでも、情報発信者になり、瞬時にそれが世界を駆け巡るという情報社会に暮らしています。しかし、全ての情報が正しいわけではありません。情報には信頼度が高い情報もあれば低い情報もあり、情報被害や犯罪の誘因といった要素もあることは見逃せません。いわゆる「フェイクニュ

ース」と呼ばれる虚偽の情報もあります。また、ネットではユーザー情報や検索・閲覧履歴などをもとにその人に最適な内容を表示させる仕組みにより、フィルターバブルと呼ばれる自分好みの情報の膜に包まれる危険性もあります。これにより、自分と異なる意見や価値観、多様な情報に触れる機会が減り、偏った情報を正しいと信じ込み、誤った判断をする可能性もあります。

ネット上で誰もが情報を発信できる現在、デマの発生を防ぐことはできません。まずは自分に集まる情報は、SNSの特性によるものと認識し、常に正しいとは限らないことを理解して多様な情報源から情報を収集するよう心がけることが大切です。使い方を誤ると多くの人が傷ついたり、偏見や差別にさらされたりすることがあります。私たちの世界を広

げてくれる欠かせないものだからこそ、インターネットに関わる人権問題について考えてみませんか。

